

京都経済センターを拠点に新時代への飛躍を



会頭 立石 義雄

オムロン株式会社
名誉会長

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

本年3月、京都商工会議所は、明治18年から130有余年にわたって事務所を構えた烏丸夷川の地を離れ、四条室町に完成する京都経済センターへと移転いたします。京都経済センターは、「京都経済百年の計」として京都府や京都市、産業支援機関など、オール京都で整備を進めてきたもので、完成は京都経済界の悲願でもあります。

私は会頭就任以来、「『知恵産業のまち・京都』の推進」を基本方針に掲げ、知恵ビジネスを展開する意欲的な中小企業の発掘と集積に力を注いできました。また、行政や経済界などのトップが議論を重ね、2013年に策定した「京都ビジョン2040」では、京都が目指すまちの姿として、国内外から人や情報が集まり、交流・連携から新たな価値が生まれる「世界交流首都 京都」

を目指すことを提示しています。こうした長期のまちづくりビジョンを実現するための「場」となるのが、3月16日にグランドオープンを迎える京都経済センターです。新たなネットワークの創出や価値の創造を目指して、分野や垣根を越えた多様な連携交流を促進させることで、「知恵産業の森」を形づくる多様な知恵ビジネスが生まれることを期待しています。とりわけ、京都の未来を担う若手起業家や、創業を目指す学生等が切磋琢磨する場となり、京都経済を牽引する産業人材の育成と京都発の新たな知恵を生む拠点となるよう、関係団体とさらに連携を強化して取り組みを進めて参ります。

本年の干支は「己亥」。干支は植物の成長に例えられ、己は草木が十分に生い茂って整然としている状態、亥は草木が枯れ落ちて種の内部に生命力がこもっている状態を

指し、どちらも基礎が固まり、次のステップに向けて飛躍するための準備が整うという意味になります。今年には京都経済センターがオープンし、京都経済の飛躍に向けて土台が整う重要な年です。2021年までに実現する文化庁の京都移転や、北陸新幹線の早期全線開通などを見据えながら、平成の次となる新たな時代へ向けて、充実した一年になることを期待しています。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新しい時代に向けて



副会長
柏原 康夫

株式会社京都銀行
取締役相談役

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
十年一昔、世界はリーマン・ショックの大激震から立ち直りましたが、グローバル化の負の側面とも言える禍根が残りました。社会格差の拡大はその一つで、人々の憤りが自国優先主義と結びつき、いま世界経済の不安定要因となっています。

雇用創出を通じた生活安定への貢献は、企業の重要な役割のようですが、経営合理化の下で雇用も聖域ではなくなりました。しかし、雇用をお金に換算するだけのリストラ経営では、たとえ業績が一時回復しても、成長力は先細り、やがて縮小均衡の道を歩みます。

次の十年、わが国では元号が変わり新しい時を刻みます。新時代にこそ、従業員に夢と希望を与え、その生活に潤いをもたらす経営が求められます。真に国の発展にも寄与する新時代の経営を、京都から世界に向けて発信する嚆矢となる年にならうと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

激変の時代にこそ「ほんまもん」の京都の強みを



副会長
堀場 厚

株式会社堀場製作所
代表取締役会長
兼グループCEO

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨今の世界情勢は激変していると言っても過言ではない状況ですが、そのような中でも基幹産業である自動車分野での技術革新をはじめとして第四次産業革命は予想以上のスピードで進んでいると実感しています。

このように大きな変革が求められる時代にこそ、歴史的に変化を上手く取り込んだ京都の強みが発揮されるのではないのでしょうか。

伝統と文化に根ざした京都企業は、それぞれのユニークな事業分野で「ほんまもん」を追及し、優秀な人材が力を発揮しています。これらの京都企業が結束して挑戦すれば「十一」を三にも四にもできるのではないのでしょうか。

異業種の連携も視野に入れ、企業の垣根を越えた「スーパードリームチーム」を結成し、世界を舞台として明るい未来を創り上げるべく共にまい進してまいります。

皆様のご多幸と、実り多き一年をお祈りして新年のご挨拶いたします。

世界に誇れる“京都”を発信



副会長
塚本 能交

株式会社ワコールホールディングス
代表取締役会長

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
昨年は、地震・台風・大雨による自然災害が、過去に例をみない規模で多発しました。被災されました方の早期復興を祈念いたします。

一方で、世界における日本人の功績が数多く評価された一年でもありました。平昌オリンピックやロシアW杯での代表選手の活躍や、本庶佑教授のノーベル生理学・医学賞受賞など、多くの方が刺激を受けたのではないのでしょうか。

来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、今後益々日本への注目度は高まるでしょう。その中でも京都には、歴史に裏付けされた伝統や文化を基盤に、革新をもつて生み出される様々なモノ・コトがあります。IoTによる技術革新などにより、ネットでの買い物当たり前の時代になっても、多くの観光客が京都に足を運んでくださるのには、京都にしかない誇れるモノ・コトがあるからに他なりません。

本年も京都から、日本のみならず世界でも注目されるモノ・コトを発信し続けられるよう、京都企業各社が活躍される一年になることを願い、ご挨拶とさせていただきます。

新しい歴史を刻む3つのキーワード



副会長
服部 重彦

株式会社島津製作所
相談役

新年あけましておめでとうございます。

昨年は国内外とも激動の一年でしたが今年はどうなる一年になるのでしょうか？

米中の貿易戦争は今年も解決の糸口を見出せないまま推移し、国内の景気も厳しい局面を迎える事になるかもしれません。しかしこのような暗雲の中でも京都の経済界は常に挑戦と飛躍の歴史を積み上げてきました。今年も待望の「京都経済センター」が完成し商工会議所も新しい歴史を刻むこととなります。私は新しい歴史にふさわしいキーワードとして①「スタートアップ」②「事業継承」③「シニアリングエコノミー」を選びました。

今京都はスタートアップ企業が集積する魅力のある町として注目を集めています。と同時に京都の伝統産業等でも後継者難のため人材が流出し始めています。そして新しい市場を創出するシニアリングエコノミー、あなたにもビジネスチャンスがあります。ぜひ皆さんとともに考え、議論し、挑戦しましょう。

経済センターの活用を期待



副会頭
若林 卯兵衛
株式会社若林佛具製作所
取締役相談役

新年明けましておめでと〜うございます。本年が皆様にとりまして幸多き年になりますよう念じております。

昨年政治・経済をはじめ各分野において変化の多かった年であったと思います。その中で京都にとりましては、経済センターがオープンし、殆どの経済団体が入居することによって、効率良く連携し機能することに大きな期待を寄せています。東京オリンピック・パラリンピック閉幕後の日本経済を大きく心配する動きもありましたが、幸い万博の大阪開催が決定したことにより、改めて前向きな明るい気持ちになれたと思います。成功に向けて解決すべき課題はまだ山積していると思いますが、京都にとりましても明るい話題に違いないと思います。

工芸産業振興特別委員会といたしましても、京都の近代産業や伝統産業の生産力と文化が協力し合った形での、総合的な「文化×知恵産業展」（仮称）を、今秋開催に向けて鋭意検討を重ねております。

本年も委員会メンバー共々頑張つてまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新たな価値を創造する



副会頭
山口 悟郎
京セラ株式会社
代表取締役会長

新年、あけましておめでと〜うございます。京都経済は総じてプラス基調となっており、中でも京都に拠点をおく企業が多い、電子デバイス関連の分野は、高水準の成長を果たしています。IoTやADAS（先進運転支援システム）等の進展に伴い、新たな需要も見込まれ、本年はさらなる活況が期待できる年になると考えています。

技術の変化が激しく、価値観が多様化する時代に、新たな製品やサービスを提供していくには、これまでにならぬ視点や積極的に取り入れていくことが大切です。そのためには、慣習や自らの枠にとらわれないこと、未来を見据えた新たな価値に目を向けることも、多様性を受け入れる柔軟な姿勢が求められます。

3月には、京都経済支援の中核を担う、京都経済センターが活動を開始します。京都経済の活性化に向けた創造の場となることを期待しています。

本年も微力ながら、副会頭として尽力してまいります。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

京都経済センターから発信する京都ブランド



副会頭
野瀬 兼治郎
啓明商事株式会社
代表取締役会長

新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

昨年9月に、第16回目となる「きものサミット in 京都2018」を開催しました。平成8年に第1回を京都で開催して以来、全国のきもの産地で開催しており、今回は平成26年東京で開催された第15回大会以来4年ぶりとなります。業界が直面する5つのテーマ（商慣行のあり方・東京オリパラに向けて・きもの目の取組み・成人式への対応・ユネスコ登録に向けて）について、きものに携わる全ての者が一つになって取り組んだことで、過去最大となる400名を超える方に参加いただきました。今後、次世代に繋がる産地振興の取組みやきものに関する話題づくり、着用品の創出など伝統産業の発展に取り組んでまいります。

また、本年誕生する京都経済センターでは、京都の経済界が集結する拠点としての注目度が高く、オール京都としての発信をすることで、伝統産業と先端産業とのコラボや異業種間での新たな取り組みを創造する拠点となるよう期待しております。

本年も微力ながら、副会頭として京都経済のため尽力して参りますので、会員の皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。